

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第2回福津市総合教育会議	
開 催 日 時	平成29年10月24日(火)	午前10時45分から 午後 0時13分まで
開 催 場 所	福津市役所 本館2階大会議室	
委 員 名	(1) 出席委員 原崎市長、柴田教育長、下山委員、笠置委員、 藤井委員、青木委員 (2) 欠席委員 なし	
所 管 課 職 員 職 氏 名	溝辺教育部長、大賀総務部長、高橋健康福祉部長、堤田地域振興課長、横山福祉課長、神山こども課長、川崎広報秘書課長、池田教育総務課長、増田学校教育課長、安武郷育推進課長、花田文化財課長、吉住参事兼主任指導主事、森指導主事兼教育指導係長、長友総務企画係長	
会 議 (内 容)	議 題 容	・福津市教育大綱(案)について ・市民アンケート、中学生アンケート結果から見える課題等について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	4人
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		

## 1 開会の宣言

川崎：ただいまから、平成29年度第2回福津市総合教育会議を開会いたします。本日、司会進行を務める福津市広報秘書課の川崎です。よろしくお願いいたします。

本日の会議は、皆様にお配りしている会議次第に沿って進めていきます。なお、会議出席のメンバーについては、次第及び席次表のとおりですので、執行部の紹介は省きます。

## 2 挨拶

川崎：まずはじめに、原崎市長がご挨拶を申し上げます。

市長：総合教育会議は今年度第2回目です。第1回は7月25日に開催し、私が3月に市長に就任しましたので、昨年度これまで進めてきた教育大綱に対して、私なりの新しい提案をいたしました。6月市議会での所信表明でも申し上げた「対話」の視点、それと、大変自然豊かなところが福津市の魅力ですので、「自然環境保全」等の視点。そして、7月に新原・奴山古墳群が世界遺産に登録されたので、その点を子どもたちに学んでもらい、福津市外へ、また海外に向けて発信してもらいたいし、また、県外からも海外からも福津市にたくさん来られることもあるでしょうから、「国際交流」の視点などを提案させていただきました。

7月から本日まで、約3か月が経過しましたが、子どもたちの世界遺産への関心はやはり高いですし、大人たちも大変関心を持っていただいております。福津市は教育施策において、子どもから大人までの生涯教育を掲げています。このことが基本ラインとしつつ、自然環境や国際交流を踏まえたものに作り上げたいと考えています。この表紙にもある光の道で有名となった宮地嶽神社もあります。先々週は、全国からたくさんの市町村長が集まり、門前町サミットを開催しております。

環境基本計画や今策定中の市総合計画とリンクさせた、この福津市の特色ある教育総合計画を今後作っていただくとともに、その根幹となる教育大綱を策定します。

教育大綱は大変重要です。今日は、前回の私の提案を含めた案として策定しておりますので、これについて事務局からの紹介と、意見交換が準備されておりますので、大変有意義な会議になることを期待いたします。

それから、今日は傍聴者がおります。この総合教育会議は、首長が主催する会議です。教育委員の皆さんと市長部局が一緒になって、これから本市が目指すべき教育の方向性や課題等について協議し、教育施策を決めていくという会議です。市民の多くの皆さんにも、今どういう状況でこの福津市の教育施策、教育総合

計画を作ろうとしているのかということを知っていただくことは、大変意義深いことだと思っておりますので、今日は、傍聴者の発言の機会はありませんが、この会議の内容をしっかりと聞いていただき、また考えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

川崎：本日の協議について説明いたします。次第のとおり、協議事項が2つあります。

まず1つは、「福津市教育大綱（案）について」です。前回の会議では、市長の教育ビジョンについて語っていただき、それに基づいて教育委員の皆さんと意見交換を行いました。市長の教育ビジョンを受けて、教育大綱の素案がまとまりましたので、今日は特に前回会議の意見を加筆・修正した部分の説明を行い、その後、承認をいただきたいと思います。なお、昨年からの教育大綱策定の件については協議を重ねてきましたが、今回で完結したいと思います。

2つは、「福津市民アンケート、中学生アンケート結果から見える課題等について」です。福津市総合計画の策定に向けて現在、全庁的に策定の作業が進んでおります。その中で、18歳以上を対象とした市民アンケートと中学2年生を対象とした中学生アンケートを実施しております。今日の会議では、このアンケート結果をもとに、現時点で見える教育関連施策の課題や改善の方向性などについて、意見交換をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 協議 ①福津市教育大綱（案）について

川崎：それでは協議事項に入りますが、司会は市長が行います。

市長：まずはじめに、教育大綱（案）について、事務局から説明いたします。前回の会議で私が提案した教育ビジョンは、この大綱の「はじめに」の部分を中心に取り入れております。それでは吉住主任指導主事が説明いたします。

吉住：それでは私が、市長の教育ビジョンを反映させた部分について説明いたします。前回の会議でどのような協議をしたかということスクリーンに投影しながら説明していきます。

冒頭でも市長が申し上げましたが、所信表明の部分から強調すべきところ、つまり「対話を重視した市民参画による福津まちづくり基本指針」を教育施策でも取り組みたいということで、その点を大綱の「はじめに」の部分で強調しております。

また、『地域総ぐるみで福津の子どもを育てます』『教育環境を整備します』『待機児童を解消し、子育てしやすいまちを目指します』という3点についても、「はじめに」の部分に入れております。

次に、前回の総合教育会議の中で話題に上がったのが、次の3

つの柱でした。「対話」「国際交流」「生涯学習」です。

「対話」については、教育総合計画策定の際にも、市民の意見を取り入れ、熟議を重ねながら策定してほしいとのことでした。今後の教育施策の中でも、対話は特に重視していきたいと考えております。

「国際交流」については、世界遺産登録にちなみ、世界への発信または都市間交流を、コミュニティ・スクールの機能を生かして情報発信できないかという提案がなされました。また、ここでいう国際交流は、単に英語が話せるだけではなく、子どもたちがこれから国際社会で生きていくためのプレゼンテーションの場づくりを指しています。コミュニティ・スクールフォーラムでも子どもの作文発表があるように、あのような場づくりが子どもを育てるのではないかという意見もありました。さらに、国際というテーマのもと、スポーツ交流や多文化交流というものも進められるのではないかという意見もありました。

「生涯学習」については、現在は郷育カレッジを中心に展開されているところですが、自然環境保全の福津市環境基本計画を軸にした展開ができないだろうかという意見が市長からありました。今、中学生も松林の保全活動や、海岸清掃等にも取り組んでいますので、学校現場や大人の学びの場にも、この自然環境のテーマが生きてくるのではないかと思います。また、歴史、伝統文化の継承という点においても、生涯学習の展開が図られるのではないかという意見がありました。

その他に、これからの教育は未来志向でやらなければならないという意見が、前回の会議の中でも出ておりましたが、未来を生きていく子どもたちに、「耐え得る力」をつけるということも大事ではないかという意見もありました。また、ICT教育、ふるさと学習、魅力ある市立幼稚園の必要性等々の意見も出ております。

これらのことを踏まえ、大綱の柱立ては大きく変えることはしておりません。

基本理念は当初、「福津を愛し、みんながつながり、未来に向けて学び続ける人づくり・まちづくり」としておりましたが、『みんなとつながる』というのは、対話という言葉の踏まえると、『人と人とのかかわりを大切にしたい』という趣旨の表現に言い替えたほうが良いということで、この部分を修正しております。

『人づくり・まちづくり』について、教育というのはとりわけ人財育成だから、「人づくり」だけでいいのではないかという意見があり、これまでも議論してきたのですが、地域が人を育て、人が地域を育てるという観点や、コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへという観点から、あえて『まちづくり』の表現も残しております。

次に、基本方針で掲げているのは、どんな人財を育てたいのか、子どもから大人までの生涯学習を考えると、どんな人を育成していくのかということについてです。大きく4つの視点で示しております。

まず一つめに、「地域人としての活躍する循環型の人づくり・まちづくり」という、コミュニティ・スクールを基盤とした人材育成の循環を図るという視点。

二つめには、大人の学びを基本とした郷で生き生きと学び続け、さらに人や地域をつなぐという、人づくり・まちづくりの姿を掲げています。

三つめは、ふるさと福津の誇りや郷土愛を育むことを根底とした人づくり・まちづくり、さらには地域を活性化する人づくり・まちづくりを進める人材を育てる視点。

そして四つめが、これから目まぐるしく変化する社会の中で、未来に向けて視野を広げてたくましく生きる人づくり・まちづくりを目指す視点です。

そして、これらのような人財を育てるために、どのように育成するのかという方法を掲げたものが、基本目標のはじめの4項目、そして、その後の5項目が、人材育成に必要な環境面について掲げております。

最後に、福津の教育基盤にあるものとして、郷土の偉人でもある安部清美先生の『一人の子を粗末にする時、教育はその光を失う』という、まさに、一人ひとりを大切に、そして、地域ぐるみで郷土を愛し、皆さんと一緒に教育について語り合い、進めていけるようにという、「愛の教育」「土の教育」を置いております。

また、国際交流のことが前回の会議で議論されましたが、基本目標（4）の次世代を見通した地域の将来を担う「人財」の育成のところで、具体的な施策、事業として、委員の皆さんから出た国際交流に関する意見を取り入れていきたいと考えています。教育大綱には細かな施策は載せず、分野別計画等で示すとしておりますので、その中で、具体的な国際交流事業について書いていきたいと考えています。

今スクリーンに映している図が、先ほど申し上げた「循環型人材育成ビジョン」です。福津市で進めていこうとしているものです。0歳児から大人までというこの循環を図ることで、持続性のある、強いまちができるのではないかと考えます。つまり、小・中学生が大人になったときに、地域の子どもたちや地域のまちづくりにかかわろうとする意識を持たせるべく、今こそ、小・中学生のこの時期に育てていきたいという、未来の人財育成のビジョンを掲げています。

また、これまでは地域が学校を支援するという視点から、学校支援地域本部という活動もしてきましたが、これからは、地域と

学校がパートナーシップを結ぶという視点に立ち、学校も地域のためにどのように地域づくりに貢献できるかということも考えていきたいということで、ここでは「地域学校協働活動」という表現に変えております。

最後に、大綱の実施については、今年度内に策定して平成30年4月にスタートさせ、4年間の実施期間を経過後、更新していきたいと考えております。その関係で、教育総合計画も常に大綱ビジョンに合わせて策定していきます。以上です。

市長：ただいまの説明について、皆さんからの感想をお聞かせいただきたいと思っております。

下山委員：私は、昨年度からこの会議に出席しています。昨年度は前市長が中心となり、教育大綱の素案を練ってきました。今年、原崎市長が新市長として来られて、「はじめに」の部分が大きく変わるのかなと思っていましたが、前市長の意思も引き継ぎながら、原崎市長が考える、対話を重視するという文言、そして世界遺産に登録された古墳群、それから自然を大事にするというところの内容が、うまく加わったなど感じています。

内容的には、ずいぶんシンプルな文面になったような気がしますが、内容の濃さがその説明の中に入っていますので、より見やすく、また分かりやすくなったような気がします。特に、生涯を通しての見通しがある程度見えてきたかなと感じました。

福津市で生活しながら、福津市で学び、働き、そして余生を送るときに、私たちのようなシルバー世代が学んできたことが、若い世代に還元できるようなシステムづくりが、これから構築されたらいいなと思っております。以上です。

市長：世界遺産のことも言っていただきましたが、私が出した3つの柱のうちの一つである生涯学習の中で、自然環境保全という文言を入れたいと思っていました。生涯教育ですので、「はじめに」の中にある『持続可能なまちづくり』には対話も必要ですし、この循環型環境保全等の学習を通して、これから若い人たちも住み続け、現在の新興団地でも、10年後、20年後もしっかり循環していくような思いが、環境保全や環境教育にもつながっていくものと考えております。

青木委員：私も、分かりやすい文面になったと思っております。せっかくいいものができ上がりましたので、今後の取組の中でしっかりと具現化していただくことを希望しています。あとでアンケート調査の結果報告などがあるそうですので、そこから見えてくるような課題等があれば、また発言させていただきたいと思っております。

笠置委員：ようやく教育大綱ができ上がりましたので、私たちも力を出して、これに沿うようにしっかりと頑張っていきたいと思っております。

藤井委員：人財育成ビジョンの中で、循環型の人づくりという表現がありました。地域学校協働活動もあるように、学校も地域の中に全部含まれているということで、全市民で行うということが分かりまし

た。

市長：まさに地域と一体となった学校づくり、コミュニティ・スクールです。先日、神奈川県大和市からも視察が来られていました。コミュニティ・スクールの先進地として、福津市は継続的に取り組んできておりますが、より充実した、高みを目指したコミュニティ・スクールの実現を展開していきたいと思っております。地域と一体となった、持続可能で循環可能なまちづくり、教育施策を行いたいという思いがあります。

柴田教育長：前回、市長からいくつかキーワードをいただき、それを含めた基本方針、基本目標になっていると思っております。具体的な施策や事業は、われわれ教育委員会で作っていききたいと思っておりますので、今日は、市長自身がさらに加えたり修正したりしたい文言があれば、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。

市長：自治体によっては、例えば、子どもの貧困対策とか、家庭教育支援とかを柱にしているところもあります。ところが、この教育大綱は網羅的なものでなく、福津市ならではの、未来志向の要素が掲げられるべきだ考え、国際交流や自然環境保全の文言を入れています。また、対話というものも大きな柱の一つとしております。この対話により、それぞれ異なる環境にいる子ども一人ひとりにしっかりフォローできるようにしていきたいと思っております。

次に、アンケート調査の紹介があります。ここでも、新たな課題等が見えてくるかもしれません。それでは、次の協議事項に移ります。

## ②市民アンケート、中学生アンケート結果から見える課題等について

市長：福津市は現在、総合計画の策定を行っております。対話型の未来づくりワークショップ、市民会議を未来会議という名称で行っております。今年2月には、14歳以上の市民を対象として、この総合計画の策定に伴う市民意識調査を行いました。また、市内の中学2年生を対象とした中学生意識調査も実施しました。

これらの結果については、福津市の総合計画はもちろんのこと、この教育大綱や教育総合計画の根幹にもつながるのではないかと思うところです。

そこで、総合計画策定に伴うこの意識調査の中で、特に教育施策に関連する項目を選んで、事務局から説明いたします。その後、アンケート結果から見えるその課題点や気づいた点等について、委員の皆さんから意見を出していただきたいと思っております。それでは引き続き、吉住主任指導主事に説明していただきます。

<吉住主任指導主事の調査結果説明：28分間>

市長：大変貴重な市民意見調査であったと思います。

この後に意見をいただきたいと思います。私の感想としては、地域や小学校区によっても、意識や評価が違うことが分かり、それがそのまま地域の課題になるのかなと感じるところもありました。世界遺産がある勝浦校区では、国際交流の意識が高い傾向があるようですし、地域性があってよかったなと思います。

それでは、委員の皆さんの意見をお聞かせください。

笠置委員：福津市が好き、支えたいという意識が高い子どもたちの思いを聞くことができ、すごく頼もしく思いました。子どもたちが元気なまち、そして、子どもたちの心が穏やかで、落ち着いていれば、子どもたち自身の成績向上にもつながっていくのではないかと思います。

アンケートの中の意見にあった、子どもたちがやってみたいというアイデアについて、実際にさせてみていいのかなと思います。大人たちが上手に導いて、口出しをせず、見守りながら、時にはつまずいたり失敗したりしながら、子どもたち自身に発見させていくことが大事だと思います。行き詰った時には、大人がアイデアを出したり、アドバイスをしたりしながら、大きな達成感や心の成長を促すことができたらいいなと思います。

地域の郷づくりやコミュニティ・スクールやみまもり隊等の役員の年齢層も高齢化しており、しかも役員のメンバーが固定化してしまって、新メンバーが入りにくいという状況が少なからず見受けられます。保護者や地域の方の中にも役員になりたい人はいますので、そういう人たちをうまく引っ張り込む役割を行政職員や私たちが担い、それがうまくいけば、次の世代が育っていくのではないかと思います。

また、学校の先生方はすごく忙しいですし、ずっとやってくれたとしても異動があります。学校内の子どもたちも年々入れかわります。そこで、人が変わっても揺るがない土台を地域でつくっていきけるといいのではないかなと私は思いました。

市長：私もそう思います。本当は入っていきたくても、なかなか入っていけない。本当は声を出して提言したくてもできないというものもあると思います。

市総合計画の策定では、市民会議などへの参加を呼びかけて、いわゆるサイレントマジョリティーの人たちの意見も取り込むようにしているのですが、笠置委員の意見は、今後の教育総合計画の策定にもつながりそうだと感じました。

藤井委員：子ども会や育成会関連で、参加者数が減少傾向だというのが気になりました。子どもたちの体験の場や活動の場は必要ですし、人間関係や地域とのかかわり合いは、育成会でつくっていくものだと思いますので、入会を嫌がる人もいるとは思いますが、地域で何をして、地域の人がかかわってどれだけのことをしているかと

というのは、地域の人に知ってもらうことが大事です。やはり家の中でも、対話というか、人づくり・まちづくりというか、子どもたちとの話し合いをしっかりと行って、子どもが今何を考えて、何をどうしたいのかということ、保護者の方に知ってもらいたいと思いました。一方で、保護者も子育てについて悩んでいることや、ちょっと相談したいことがあると思います。すべての家庭が、コミュニティ・スクールのことや地域のこと、行事のことが分かっているわけではないと思います。回覧板で見るだけでなく、実際に足を運んで、皆さん自身から知っていただいていたほしいなと思いました。

市長：私も、子ども会育成会の活動が低下傾向にあるというのはちょっと気になっています。自分が子どもの頃のほうがもっと盛んだったと思います。部活動、塾、レクリエーション、そしてSNSなど、余暇の過ごし方が複雑化しています。そういった中で、本当に現実の体験ができる子ども会育成会への意識が下がっているような気がします。

一方で、こんなことも思いました。勝浦小学校には校区外の方も通っています。また、福間小には宮司地区から通う子どもたちもいます。つまり、育成会というのは、もともと学校とは切り離された地域のものですが、その地域の中で、通う小学校ごとに分けるのか、それとも、通う小学校が違っていても、その地域では子ども会育成会で地域の子どもを見ていくのかなど、そういうことも忘れられがちだけど、考えなければいけないなと思っています。

青木委員：小中学生たちは、とてもまじめにいろいろなことを取り組んでいるなという気がしました。学校訪問に行くと、どの学校も落ちついた状態であるという印象があります。

国際交流に関しても、小学校でも英語の授業が導入されていて、学校訪問の時もびっくりするぐらい、子どもたちは発音や英語での文章を理解している現状を見て、言葉の面の発達というのは、必ず進んでいこうと思いますので、中学校やその後の段階で、それが発揮できるような場や機会をつくっていただきたいと要望いたします。

また、コミュニティ・スクールの成果もアンケートの中から出てきているということが感じられたのですが、一方で、自治会とか郷づくりの活動に積極的に取り組んでいる割合が、増加傾向と言えどもまだ10%程度のようなようです。これに関連して、先生方がどの程度コミュニティ・スクールに積極的に取り組まれているのかというのが気になります。学校の先生たちは本当に多忙で、夜の9時、10時まで働いている状況から見ると、精神的に不健康な状態で仕事をされてるのではないかと感じます。実際に、子どもたちと深くかかわっているのは先生たちですので、労働条件の改善というか、そういうところなしには進んでいかないような気

もしまし、今50代の先生の割合が比較的高いようですが、この先生たちがこの10年間で退職された後のことを考えて、若い先生たちへ、コミュニティ・スクールのことだとか、地域の土台づくりというものを、しっかり受け継いでいけるように考える必要があるのではないかと思います。

市長：労働条件をできるだけ改善して地域づくりにつなげるということは、私も考えなければいけないと思っています。先日、市内中学校の文化祭がありましたが、地域の要素をたくさん取り入れた文化祭を展開している学校、中学生の発表を主体にした文化祭を展開している学校というように、中学校によってもいろいろあるのだなと思いました。

下山委員：アンケートの数字には出てこない部分で、やはり子どもはいろいろなことを学びたいという気持ちをすごく持っているような気がしました。学びたいものが学べているかというのが、アンケート結果にも出てきているのではないかと思います。

大事なところは、指導する側の力量がそれに伴っているかどうかです。例えば、部活動であれば、顧問の先生がその専門の先生であれば、ぐいぐい引っ張っていけます。一方、そうでなければ、子どもたちがしたいままにさせてしまうことになり、結局、力量を伸ばしているかどうかということ、そうではない部分があると思うのです。それを踏まえると、地域には、いろんな能力を持った人がたくさん埋もれているはずで、それが、基本目標という「人財」です。その財産を発掘するような市の施策をぜひ今後やっていただきたいと思います。

例えば、商工会が展開している「福津の仕事人」というのがあります。商工会が主体となって、中学生に出前授業をやっているのです。福津で育ち、今、事業主となって自分で頑張っている人たちが、次の世代を育てようとしているのです。それから高校でいうと、例えば、水産高校では、大峰山の竹林を伐採して、それをそのまま捨てるのではなく、海の中にそれを取り込んで、人工魚礁として小魚を集めるという活動をしています。

現役を退いた人たちは、こちらから声を掛ければ、すごく出やすく思うのです。経験豊富な、運動や文化や芸能の技能を持っている人はたくさんいるはずですので、そういう人たちについては、ぜひ手を挙げてくれるような状況を市として積極的に進めていくと、子どもたちにとっても、そういう指導者なら、僕はこれをやってみようとか、いろんな選択肢が増えるような気がします。そういったところに力を入れていくと、子どもたちもより成長するし、地域の人たちもやり甲斐が出てくるかなと思います。

市長：商工会には、福津の仕事人や、中学校の職場体験などでもかかわりがあります。人材発掘のためのシステムづくり、市の施策としての「人財」育成を進めてほしいという意見をいただきました。

柴田教育長：委員の皆さんからいい提案をたくさんしていただきました。私は教育行政を預かる立場ですから、いろいろな思いがめぐっているところですが、この教育大綱の主な方向性というか、理念をこうして示していただいて、非常に感謝しております。今日の意見も踏まえて、今後、具体的な教育施策を我々は考えていきますが、10年後、20年後にはなくなってしまう職業とか、新たに生まれてくる仕事もあるかと思えます。グローバル化、少子化、高齢化、ICT化、あるいはAI化とか、そういったことに対応できるような基盤を何とか作り上げたいと思っています。

先ほどアンケート結果を見ていたら、内向的というか、安定志向型だなという印象を僕は持ちました。ただ、うれしかったのは、福津のために何か役に立ちたいというのは、半分の人しかいませんでした。これは、ある意味考えたら、市外で頑張りたいと思っている子が半分はいると言えます。もし、福津に残って福津のために尽くしたいという人が9割もいたら、それは逆にうれしいようで、ちょっと寂しいような気もするのです。私は、市外に羽ばたいていくような子どもたちを育てたいなというふうに思っています。そうすれば、ある一定の年齢になった時に、福津のために何かしようと思えると思うのです。

例を言えば、フラワーアーティストとして世界的に注目を浴びている東信さんは福間中出身です。21歳ぐらいの頃から花屋さんで働きはじめ、今は世界で活躍しています。私が福間中の校長をしていた時、彼の作品を集めた本を、何十冊も学校に送ってきてくれました。つまり、世界で活躍するようになって初めて、福津のために何か役に立ちたいと思ってくれたようです。

彼のようにインターナショナルで活躍している人は他にもいます。今の子どもたちにどう教育するかというと、私としては、視野を広げるような教育方針でやりたいと思っています。視野を広げるといのは、その子どもに新たな体験、想像を超えるような体験、あるいは子どもがあっと驚くような人に出会わせるのです。つまり、視野を広げるといのは「体験」と「人との出会い」であり、それを概念化するのは、書物、ビジュアル（画像）だと思えるのです。そういうものに触れる機会を何とか学校教育の中でできないかなと、今思っているところです。

一度、子どもの好奇心や冒険心をあおってみると良いのです。そのために学校としては、先生たちが未来志向になって、冒険心を持ってもらわないと困るのです。教育に対する世間の目が厳しい時世ですから、しかり方一つにしても、教師が守りに入ってしまうと、子どもたちの視野を広げたり、好奇心や冒険心をあおったりすることができなくなっているようです。教師は、「挑戦しなさい」と子どもに言っていますが、自分自身は挑戦していない人がいっぱいいるわけです。だから、そこに風穴をあけて、特色ある学校教育をやりたいし、学校だけではちょっと力不足なので、

社会教育の面からいわゆる子どもの視野を広げる、好奇心、冒険心をあおる。そして、「新しい体験が自分をこんなに成長させるんだ」とか「学ぶことって結構おもしろいな」とか、いわゆる学び好きにすると、将来に向けて、感動する力や、見据える力が出てくる。そうすると、何か福津のためにできないかという気持ちが出てくるのです。そういったことをイメージして、具体的実践に結びつけたいと思います。できるだけお金を使わなくても、ICT、AI、あるいはスポーツによる教育ができたらいいなと思っております。

市長：今日はこの大綱をベースに、今後策定する教育総合計画等にどのようなつながっていくのかという、いろいろな提案がいただけたのではないかと思います。また、今日は市民意識調査と中学生の意識調査の結果をもとに、そこから見えてくる教育関連施策の現状の課題点、それから今後の改善点などについて、この大綱案と照らし合わせながら、意見を出していただきました。

今後は、本日の協議に出された課題や改善点を踏まえて、教育大綱の具現化に向けての教育総合計画を策定していただきます。今日は他の部課から、部長、課長も来ておりますので、他の分野別計画の策定においても、本日の意見を考慮していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日提示した教育大綱は、来年3月までに正式に策定したいと思っております。よろしくお願いいたします。

終了の時刻が近づいておりますが、他に何かありますか。

それでは、今日は多くの皆さんに来ていただき、教育委員の皆さんも本当にありがとうございました。それでは本日のこの協議事項については以上で終わります。広報秘書課長に進行をお返ししたいと思います。

#### 4 その他

川崎：その他の事項についてですが、事務局から何か連絡事項等はありませんか。

#### 5 閉会の宣言

川崎：次回の総合教育会議は来年の1月を予定しております。1月の会議では「次期教育総合計画の柱立て」ということを主なテーマに協議する予定にしております。委員の皆様には、後日、日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回総合教育会議を終了いたします。